

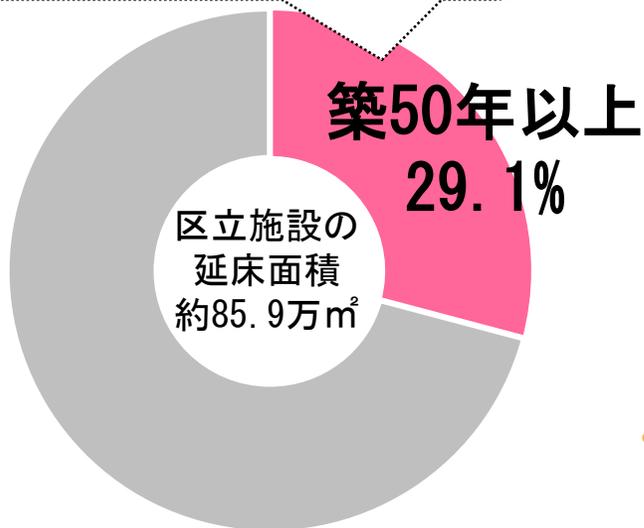
区立施設の再編整備の背景

■区立施設に関する現在の状況（課題）

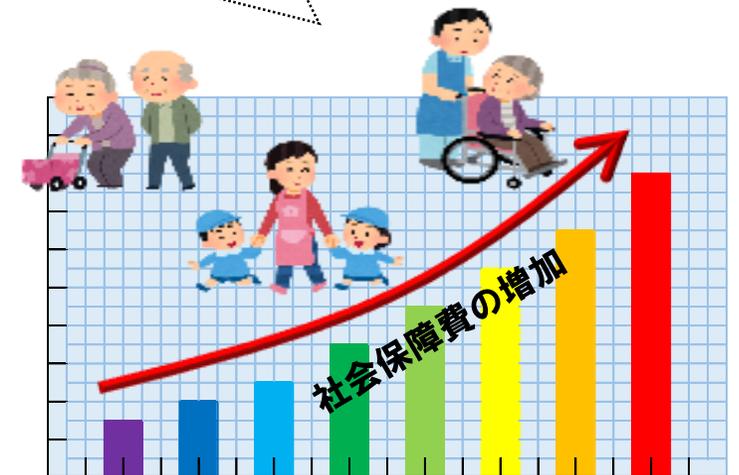
老朽化した建物が数多くあり、次々と更新時期を迎えます。

時代の変化に合わせてライフスタイルが変わり、施設に対するニーズも変わっています。

少子高齢化の進展による社会保障費の増加などにより、施設に使える予算には限りがあるため、全ての施設をそのまま維持することは困難です。



保育園や特別養護老人ホームの需要の増加など



限られた予算の中で、次世代に大きな負担を押し付けることなく、将来にわたって必要な施設サービスを提供するため、施設の機能や役割を見直す、施設再編整備が必要です。

児童館再編の取組

- 現在、区内には27の児童館があり、多くの子どもたちが利用していますが、その多くが昭和40～50年代に建設され、施設の老朽化が深刻化しています。
- また、近年、社会状況等の変化により、学童クラブを含む小学生の放課後等の居場所や乳幼児親子の居場所に対するニーズが高まっています。
- こうしたニーズの増加・多様化に伴い、児童館という限られた施設だけでは対応に限界が生じていることから、児童館が担ってきた機能・役割を継承・発展することができるよう、区立施設再編整備計画に基づき、以下のイメージ(4つの方向性)を軸に「児童館再編の取組」=「新しい子どもの居場所づくり」を進めてきました。

【児童館再編のイメージ】

